

1. とうもろこしのシカゴ定期は、8月末にかけて700セント/ブッシェルを大きく超える水準まで上昇したが、9月に発表された米国農務省需給見通しで新穀の生産量が史上3番目の高水準であったこと、旧穀の在庫数量が予想を上回っていたことなどから9月末にかけて大きく下落した。その後、中国の買い付けなどを材料に一時上昇したが、欧州諸国の財政危機を契機に穀物市場から投機資金が流出したため再び下落し、現在は600セント/ブッシェルを下回る水準で推移している。

2. 大豆粕のシカゴ定期は、とうもろこしの相場に連動して下落しており、現在は320ドル/トン前後の水準となっている。

3. 海上運賃は、新造船の竣工が順調であるものの、9月下旬以降、中国向けの鉄鋼原料や大豆の輸送需要が増加したことから上昇し、現在は60ドル/トン前後の水準で推移している。

4. 外国為替は、9月中旬以降は77円前後で推移していたが、一段と円高が進んだため10月31日に当局が為替介入を行い一時79円台となった。その後、欧米諸国の財政不安を背景に再び円が買われ、現在は78円前後で推移している。

以上のことから、とうもろこし、大豆粕のシカゴ定期が下落するため、平成24年1 - 3月期の配合飼料価格は前期に比べ値下げとなる。

